

事業評価シート

番号 1040060 - 1

【1.基本情報】

事業名	社会復帰相談指導(精神障がい者福祉医療費助成)				
担当部名	保健衛生部	担当課名	地域保健課		
未来地図政策	高齢者や障がいのある人の支援		政策コード	2 - 3 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成18年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市福祉医療費助成に関する条例	

【2.事業概要】

事業の目的	重度の心身障害者に対し、医療費の一部を助成することにより、経済的な負担を軽減し、健康の維持確保と福祉の増進を図る。				
事業の内容	重度の心身障害者が、病気などのため医療機関で診察を受けた場合に払う保険診療の自己負担分を助成する。				
事業の対象	何を	医療費の助成			
	誰に (対象者・対象者数)	精神障害者保健福祉手帳1級・2級の保持者で、所定の所得制限制度に抵触しない方			
	どのくらい (具体的数値で)	保険適用の医療費の一部を助成する			
令和2年度 (実施内容)	○対象人員(年度平均) 2,892人 ○受診件数 101,689件				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0		0		0	
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	1,053	229	216	46	203	45
計(A)	1,053	229	216	46	203	45

(2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)	468,906	487,349	501,474
直接事業費の主な内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目 医療費助成	459,187	475,845	490,649
審査手数料	7,798	8,429	8,769
委託料等	1,921	3,075	2,056
減価償却費【施設管理】※(C)			
計(D)=B+C	468,906	487,349	501,474

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	469,959	487,565	501,677

【4.収入】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金	229,103	252,404	245,324
市債			
使用料・手数料			
その他	9,719	6,597	4,884
計(F)	238,822	259,001	250,208

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	231,137	228,564	251,469

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	重度障がい者等(精神)	重度障がい者等(精神)	重度障がい者等(精神)
受益者数	2,548	2,707	2,892
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	90,713	84,435	86,953

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	重度心身障害者等医療費助成(精神分)	単位	千円
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	506,416	507,762	510,619
実績値	462,240	487,349	501,474

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	1人当たりの年間受診件数	単位	件/年
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	38.16	37.37	38.03
実績値	36.88	37.57	36.59
達成状況	×(未達成)	○(達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	重度障がい者等(精神)で所定の所得制限に合致する比較的低所得である方①保健の向上と福祉の増進を図ることは、現在の成熟した市民社会が求める障がい者福祉に関わる諸制度や行政サービス、及びそれらを支える理念から必要である。 県補助制度(補助率1/2)に基づき、県と市(町村)が展開する地方創設の福祉行政の助成事業である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	①身体・知的・精神の障がい者の15%前後の方が通院の医療費や交通費の負担で困っている一方、②60%前後の方々は通院に対して特に困っていないと回答(平成30年3月発行「第4次岐阜市障害者計画」P.33より)している。①より、当該助成制度の必要性が、②より当該助成の効果を読み取れる。 継続した治療が必要な当該者に対し、医療費の助成をすることで経済的負担軽減を図ることは、効率性が高い。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	治療を継続するためには、医療費の一部に対する助成は、効率性が高い。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	当該制度の受益者は重度の心身障がい者であり、社会的弱者支援の観点から所得制限を設けた上でその負担軽減を図ることは適切である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	精神保健福祉手帳1級・2級の所持者数の増加に伴い、毎年2千万円程度の増加が継続する状況にあることを踏まえ、今後の財政及び社会状況の推移等の動向を注視しつつ事業を維持継続する。

事業評価シート

番号 1040060 - 2

【1.基本情報】

事業名	骨髄等移植ドナー支援事業				
担当部名	保健衛生政策課	担当課名	地域保健課		
未来地図政策	活動の源になる健康づくりの推進			政策コード	2 - 1 - 0 - 0
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成28年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	白血病等の血液難病には、造血幹細胞(骨髄等)の移植が有効な手段であるが、遺伝子型の適合率が低いため、より多くのドナー希望者の登録が必要である。骨髄等の提供者に、生活上の負担を軽減するため助成をし、ドナー希望者の登録を推進する。	
事業の内容	(公財)日本骨髄バンクを通じて骨髄等の提供をしたドナーに助成金を交付する事業に対し、岐阜県が補助金を創設したことにあわせ助成	
事業の対象	何を	助成金の交付
	誰に (対象者・対象者数)	骨髄等の提供者
	どのくらい (具体的数値で)	入院及び通院1日につき2万円(上限14万円)
令和2年度 (実施内容)	(公財)日本骨髄バンクを通じて骨髄等の提供をしたドナー1人に助成金を交付	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	63	2	63	2	65	2
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	63	2	63	2	65	2

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		560	280	140
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	諸補助金	560	280	140
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		0	0	
計(D)=B+C		560	280	140

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	623	343	205

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金	280	140	70
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	280	140	70

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	343	203	135

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	骨髄ドナー	骨髄ドナー	骨髄ドナー
受益者数	4	2	1
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	85,750	101,500	135,000

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	助成金交付数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	3	3	3
実績値	4	2	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	骨髄ドナー登録会開催数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	3	3	3
実績値	4	8	7
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	骨髄提供者は、4日の入院と3日の通院が必要であり、その損失補償のために助成制度は必要である。また、ドナー登録者を増やすためにも助成制度は必要である。 県内42自治体中39自治体が制度を導入。全国で助成制度の導入が進んでいる。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	骨髄提供者への直接の損失補償は効果的である。 骨髄ドナー登録者を増やすためには、県庁保健医療課、日赤血液センター、岐阜骨髄献血希望者を募る会と協力し、献血会場における登録会を推進する。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	低	岐阜県のドナー登録者数は低迷し、増加につながっていない。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	骨髄提供者となる機会は非常に少ないため、公平性ははかれない。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	骨髄ドナー登録者を増やすためには、県庁保健医療課、日赤血液センター、岐阜骨髄献血希望者を募る会と協力し、献血会場における登録会を推進する。

事業評価シート

番号 1040060 - 3

【1.基本情報】

事業名	難病患者等支援事業				
担当部名	保健衛生部	担当課名	地域保健課		
未来地図政策	活動の源になる健康づくりの推進		政策コード	2 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成13 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	発病の機構が明らかでなく治療方法が確立していない難病は、経済的、精神的な負担が重く大きいため、患者と家族の日常生活を支援することにより、難病患者等のQOL(生活の質)の向上を目指す	
事業の内容	○専門医・保健師等による難病医療講演会、相談会の実施 ○移植医療推進のための普及啓発	
事業の対象	何を	難病医療講演会、相談会
	誰に (対象者・対象者数)	難病患者及びその家族、支援者
	どのくらい (具体的数値で)	講演会等を3回／年実施
令和2年度 (実施内容)	難病医療講演会1回	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	476	15	476	15	488	15
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	476	15	476	15	488	15

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		132	146	55
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	報償費	115	98	48
	郵送料	17	48	7
減価償却費 【施設管理】※ (C)				
計(D)=B+C		132	146	55

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	608	622	543

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	608	622	543

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	難病患者及び家族、支援者	難病患者及び家族、支援者	難病患者及び家族、支援者
受益者数	85	148	14
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	7,153	4,203	38,750

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	講演会・相談会の実施回数	単位	回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	3	3	3
実績値	3	3	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	難病医療相談会の参加者数	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	100	100	100
実績値	85	148	14
達成状況	×(未達成)	○(達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	難病は、発病の機構が明らかでなく治療方法が確立していないため、療養上の不安が大きい。また専門性が高く情報を得にくく、患者が交流する機会も少ない。 行政が患者に関する情報を一元的に持っており、行政の主体的な関わりが必須である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	講演会は対象疾病を変えて3回開催しているが、医療費助成の対象は333疾病に拡大され、すべての疾病を網羅することは不可能である。 岐阜県難病団体連絡協議会の医療相談会等と内容が重複しないよう、適切な役割分担のもとで企画する。また、患者数が少ない疾病を対象とする際には岐阜保健所と共同開催とする。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	医療に関する情報が得にくく、かつ同じ疾病の難病患者と出会う機会が少ない状況において、情報提供や交流の機会を提供することは、患者とその家族の不安や負担の軽減を図ることができる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	講演会は対象疾病を変えて3回開催しているが、医療費助成の対象は333疾病に拡大され、すべての疾病を網羅することは不可能である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)-廃止)	現状維持	難病対策地域協議会にて、難病支援の課題を把握・検討しながら、支援者等関係機関と連携して企画する。

事業評価シート

番号 1040060 - 4

【1.基本情報】

事業名	地域の健康・福祉活動の促進支援(岐阜市あけぼの会)				
担当部名	保健衛生部	担当課名	地域保健課		
未来地図政策	高齢者や障がい者のある人の支援		政策コード	2 - 3 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	岐阜市あけぼの会
実施期間	昭和59 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	精神保健福祉法(家族会支援)	

【2.事業概要】

事業の目的	精神障がい者家族会である「あけぼの会」は、精神障害者及びその家族の福祉の向上を目的とする岐阜市唯一の精神障がい者の家族会であり、精神障がい者の社会復帰や社会参加への支援を行うためには必要な組織である。	
事業の内容	家族会は、毎月講演会や家族会同士の話し合いや研修会を実施し、医療、福祉の向上に努めている。(会員延べ出席者350人、会費306,000円、補助金90,000円で運営)	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市あけぼの会
	どのくらい (具体的数値で)	90千円
令和2年度 (実施内容)	家族会は、毎月講演会や家族会同士の話し合いや研修会を実施し、医療、福祉の向上に努めている。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0		0		0	
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	0	0	0	0	0	0

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		90	90	90
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	補助金	90	90	90
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		90	90	90

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	90	90	90

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	90	90	90

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	精神障がい者家族会	精神障がい者家族会	精神障がい者家族会
受益者数	367	447	350
受益者負担額(千円)	282	306	306
受益者負担率(%)	313.3%	340.0%	340.0%
受益者1人当たりのコスト(円、一般財源ベース)	245	201	257

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助額	単位	千円
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	90	90	90
実績値	90	90	90

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	一般市民が参加可能な講演会の開催数	単位	回/年
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	1	1	1
実績値	1	1	1
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	精神保健福祉法において保健所は精神障がい者家族会支援が位置づけられている。 同上
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	精神障がい者家族会は、市民からの相談対応等実施しており、費用対効果は大きい。 あけぼの会は、市内唯一の精神障がい者家族会であり、これ以外に効率的な方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	精神障がい者数は毎年増加している。家族会は毎月勉強会や講演会を実施し、制度等の共有化を図っている。将来的にも効果が期待できる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	会員も会費を払っており、足りない部分を補助金で補っている。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	岐阜市あけぼの会は精神障がい者を地域で支援する上で、重要な団体であり、補助を継続する。